

22 膀胱炎症状に対し、清心蓮子飲が 内服困難な場合の次の一手

みやびウロギネクリニック

井上 雅

膀胱炎症状に対し、清心蓮子飲を処方することはよくあると思われるが、胃痛や胃部不快感により内服困難な症例もある。その際に、どの漢方に変更するべきか苦慮することがある。今回、清心蓮子飲が内服困難で、五積散に変更し、症状が改善した1例を経験したので報告する。

症例は62歳女性。急性膀胱炎にて救急受診し、アモキシリンを処方されるも改善せず、近医受診し、さらにレボフロキサシンを処方されたが、頻尿と腰痛が残存し、当院を受診した。清心蓮子飲を2週間処方し、切迫感は改善したが、腰痛があり、腰痛があるときに頻尿になるとのことで、さらに3か月内服を継続。その後胃痛出現し、いったん自己中止。その後再度内服するとやはり胃痛あり。膀胱炎症状は改善していたため、終診とした。4か月後、再度頻尿、排尿時痛、下腹部違和感、腰痛ありにて当院受診された。検尿所見は問題なく、胃痛もあるため、五積散を処方した。清心蓮子飲のほうが効果ある感じがあるが、胃痛なく、下腹部があたたまる感じあり、内服可能であった。引き続き内服を継続し、症状の改善を認めた。今回、清心蓮子飲で胃痛を訴え、腰痛、下半身の冷えがあったことに注目し、五積散を処方し有効であった症例を経験した。清心蓮子飲で胃痛を訴える場合に次の一手となる漢方について考察もあわせて報告する。